

Journal of ISOM Japan

国際東洋医学会日本支部会誌

日本支部長の再任にあたり

小松ソフィア病院 腫瘍内科 元雄 良治

国際東洋医学会日本支部(ISOM Japan Chapter)の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の中、これまでとは異なる新しい日常に少し慣れてきたとは言え、厳しい状況で日夜ご努力されている方も多いことでしょう。

第20回国際東洋医学会学術大会(20th ICOM)は本来なら昨年(2020年)秋に開催される予定でしたが、COVID-19のため本年秋に延期され、先日の国際理事会でさらに1年延期と決定いたしました。やはり20回目という節目の記念大会ですから、本部のあるソウルでの開催でもあり、記念式典や交流会など現地開催でしかできないこともあります。コロナワクチン接種が世界中でなされ、2022年秋の現地開催が無事成功することを祈ります。



昨年12月にISOM会長に就任された崔昇勳先生とは、伝統医学の国際会議でしばしばご一緒し、香港での会議のあと一緒に高台や港を散策したことが今では懐かしい思い出になりました。崔先生はISOMの学術的なレベルアップをめざして、学術委員会(Academic Committee)を立ち上げ、各国から委員が集まっています。活動内容は今後の課題ですが、意欲的で、国際的な会議・活動の経験豊富な崔会長のもと、日本支部としても適切に対応し、またこれまでの経験や成果を次世代に伝えていく役割を果たしていきたいと願っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第35回、36回国際東洋医学会理事会報告

国際東洋医学会日本支部事務局長 牧野 利明

第35回国際東洋医学会理事会は、2020年12月19日にオンラインで開催されました。これまでの理事会では見かけることがなかった、ギリシャのMiltiades Karavis理事、オーストラリアのJames Flowers理事が出席し、23名の参加となりました。

議題は、元雄理事長の任期が切れることに伴う新理事長の選出で、慣例で次期理事長は韓国から選出することと、韓国からの提案である崔昇勳 Seung Hoon Choi氏が次期理事長となることが承認されました。崔昇勳氏の履歴やこれまでの活動については、別項目で紹介させていただきます。

また、本来は2020年10月にソウルで行われる予定であった、第20回国際東洋医学会学術総会（ICOM20）は、1年延期することになっていましたが、2021年5月に再度、検討することが確認されました。

第36回国際東洋医学会理事会は、2021年6月12日にオンラインで開催されました。第35回と同様、ギリシャとオーストラリアからも出席がありました。

まず、韓国支部長からの提案で、国際東洋医学会事務総長が宋美德 Mi Deok Song 氏から宋昊燮 Ho Sueb Song 氏へ交代することが提案され、承認されました。宋昊燮氏の履歴やこれまでの活動についても、別項目で紹介します。

第20回国際東洋医学会学術総会（ICOM20）の開催時期については、まだ国をまたぐ移動制限が解消していない現状から、2021年10月に開催することは厳しいであろうということと、第20回の記念大会でありオンラインでの開催は適さないことから、2022年10月へさらにもう1年、延期することが承認されました。

崔昇勳理事長から、国際東洋医学会そのものの学術活動を強化したいという意向から、学術委員会（Academic Committee）を新設することが提案され、日本支部からは専門分野と年代のバランスからということで、元雄日本理事長から以下の10名の先生が紹介されました。今後の活動内容については、これから議論していくことになるそうです。

小川恵子先生（広島大学）、貝沼茂三郎先生（富山大学）、加島雅之先生、（熊本赤十字病院）、齋藤宗則先生（鈴鹿医療科学大学）、高山 真（東北大学）先生、中永士師明先生（秋田大学）、笛木司先生（マツヤ薬局）、深澤洋滋先生（関西医療大学）、牧野利明先生（名古屋市立大学）、山岡傳一郎先生（愛媛県立中央病院）

国際東洋医学会新理事長挨拶

国際東洋医学会理事長 崔昇勳

I am Dr. Choi Seung-hoon, President of ISOM.

First of all, congratulations on the publication of ISOM Japan NEWS Letter under the leadership of Professor Yoshiharu Motoo.

For over a year, whole world has been suffering from COVID-19 pandemic. Japan, Korea, and Taiwan, main countries of ISOM, are no exception.

As I mentioned in this year's New Year's address, I believe a crisis is another face of opportunity. And that opportunity is only given to those who prepare. Oriental Medicine has been protecting human health as a traditional medicine for over two thousand years in our region.

In particular, for the fight against bacteria, Western medicine with antibiotics dominates, but for viral diseases such as colds and flu, Oriental Medicine, which focuses on strengthening immunity, has the upper hand. The same goes for COVID-19. As seen in Oriental Medicine formulae which treat COVID-19 traded



on Amazon recently, our medicine is currently the only available alternative to viral diseases for which there is no clear and reliable Western medicine treatment.

Based on these experiences and current status, our Oriental Medicine will shine even more in a crisis situation. With the longest history in the field of traditional medicine in the world, ISOM will now be at the forefront of it. In that sense, I expect that Japan ISOM will play an important role as one of the central countries.

On behalf of ISOM, I would like to congratulate you again.

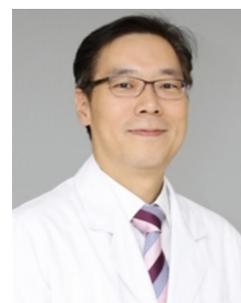
Thank you.

国際東洋医学会新事務総長挨拶

国際東洋医学会事務総長 宋昊燮

Greetings, I am Ho Sueb Song, the new secretary general elected on the 36th board meeting. I appreciate this chance to introduce myself in the ISOM Japan chapter newsletter.

I have served as board members of Association of Korean Medicine, Society of Korean Medicine and Korean Acupuncture & Moxibustion Medicine Society for many years during which I had interacted with experts at JSOM and JSAM through academic conferences and even get-togethers personally.



As I have been given this opportunity as the Secretary General of ISOM, I will do my best to hear out your opinions with an open mind so that we make more active exchanges and friendly relationship between Korea and Japan, the neighboring countries.

Also it is another crucial mission of ISOM to grow as a platform for international exchanges for the Traditional Medicine experts and all the healthcare experts to participate in which the World Traditional Medical University network can be one example.

With the pandemic situation slowly stabilizing as the COVID-19 vaccination rate increases, I look forward to the days we meet offline and put our ideas together on development of Traditional Medicine. I hope peace and good health for you and your family.

Thank you.

国際東洋医学会新理事（日本選出）からのご挨拶

愛媛県立中央病院 山岡傳一郎

今から 30 年前、私は第 6 回国際東洋医学会（東京国立教育会館）でポスター報告をさせていただきました。私の師匠、光藤英彦先生（1940-2019 年）から学んだ時系列分析法を chronological analysis として訳し、「時の流れの中で病態を把握する問診法」として紹介しました。その時、

質問していただいたのが、顔焜熒先生(1924-2017年)でした。第17回の台湾大会で、三人の後輩と共に夢のような再会を果たすことができ、次の第18回沖縄大会では長時間懇親させていただきました。東洋医学に関しては、愛媛大学時代から文化人類学に興味を持ったことを契機に、光藤英彦先生に師事しました。所属する病院の中では、新臨床研修制度の開始を契機とし臨床研修センターを開設し、若い医師に東洋医学の必要性を伝えました。日本東洋医学会では、経穴主治委員会、生薬原料委員会で役割を頂いて参りました。



現在の私の興味は、「ニセの老化と真の老化」、「こころと精神」、「遺伝子と遺伝子外（エピゲネシス）」であり、これらの中で東洋医学に関連することをまとめたいと考えております。

この度、新理事を拝命するにあたり、果たして私にできることはあるのだとうかと考えております。ただ、昨年7月から4ヶ月、(スペイン、フランス、イギリス、ドイツ)にて、公務員医師としてサバティカルな時間をいただき、臨床と研究の手習いをすることができました。お世話になった方々への感謝を込めて、少しでも何かお役に立てることがありましたら、一所懸命にさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

【略歴】1983年愛媛大学医学部卒業。同年より愛媛県立中央病院でローテート研修し、1985年愛媛県立中央病院東洋医学研究所に配属し光藤英彦先生に師事。2005年マギール大学でマーガレットロック教授の計らいにて医療人類学の短期留学。2006年同病院、東洋医学研究所所長、兼総合診療部代表部長(2009年まで)。2009年同病院、臨床研修センター長。2010年愛媛大学臨床教授任命。2015年愛媛県立新居浜副院長。2019年愛媛県立中央病院漢方内科主任部長兼鍼灸治療室長。【所属学会】日本東洋医学会漢方専門医、指導医。日本内科学会認定医。日本病院総合診療学会認定医

お知らせ：2021年度会費について

2021年度国際東洋医学会日本支部第1回理事会にて、2020年度はコロナ禍により十分な活動ができなかったため、2021年度の会費を請求しないことが決定されました。

Journal of ISOM Japan 2020 No. 1

発行日 2021年7月1日

編集者 ニューズレター編集委員会

発行者 大山雅義

発行所 国際東洋医学会日本支部 (ISOM Japan)

国際東洋医学会日本支部

ISOM Japan

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

名古屋市立大学薬学部生薬学分野内

TEL&FAX 052-836-3416

E-mail: isomjapan@gmail.com

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>